

研究開発部通信



2019 Vol.03 2020/03/10

☆ 今回の「研究開発通信」では、EdTech の活用についてお話しします。

☆ EdTech を活用しよう！

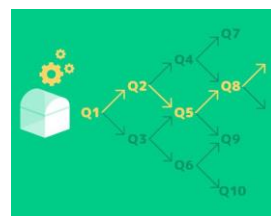
近年、デジタルや ICT（情報通信技術）を既存産業に掛け合わせることで新しい価値を生み出す「X-Tech」が増えてきました。FinTech（金融×テクノロジー）や MedTech（医療×テクノロジー）、AgriTech（農業×テクノロジー）など多数ありますが、その中のひとつに『EdTech（エドテック）』があります。EdTech とは、「教育（Education）× テクノロジー（Technology）」を組み合わせた造語で、教育領域にイノベーションを起こすビジネス、サービス、スタートアップ企業などの総称です。従来行われてきた授業をサポートし個別最適化学習を促進するもの、それが EdTech です。本校でも全校生にタブレット端末を導入し、本年度より「スタディサプリ」を導入・活用し、新年度より新たに「スタディサプリ English」「Qubena」の導入を予定しております。前回の研究開発通信では「スタディサプリ English」「Qubena」の紹介を行いました。今回はこれらのアプリ、および ICT を利用した学習についてお話しします。



☆ アダプティブ・ラーニング

学習者一人ひとりに最適化されたレベル・内容・進度での学習を実現するのが「アダプティブ・ラーニング」です。個々の過去の回答や学習履歴を蓄積・分析することで、思考パターンや弱点を見抜き、一人ひとりに合ったオーダーメイドの学習内容を提示してくれます。

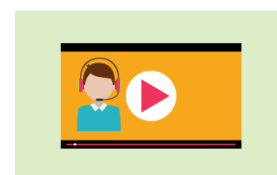
来年度、数学で導入される「Qubena」はまさにアダプティブ・ラーニングの最たる例だと思います。一人ひとりが解いた回答が誤りの場合、その問題を解決する為に修得すべき分野を分析し、一步戻った問題を次に出题してくれます。「何ができていないのか？」を正確に判断するのは難しいことですが、その部分を AI が分析し、一人ひとりに合ったオーダーメイドの学習内容を提示してくれる「Qubena」は数学の苦手克服をする為の最適なツールだと思います。



☆ e-ラーニング

EdTech が注目されるよりずっと前に、教育領域で ICT 活用がスタートしていた分野があります。それが「e-ラーニング」です。学校や塾、企業研修等において、特定の場所に集まり教育者が直接講義をおこなう「リアルな教育」に対し、パソコンやタブレット、スマートフォン等を活用しインターネットを介して学習する「e-ラーニング」は時間や場所にとらわれずに、いつでも・どこでも何度でも教育を受けることを実現した学習スタイルです。近年はスマートフォンやタブレットがかなり普及し、どこにいてもインターネットにつながる環境が出来上がっています。電車の中でイヤホンをつけ、TOEIC やビジネス英会話などのレッスンをオンラインで聞いている人が多いです。

移動の時間もスキルアップに使う、理想的な時間の使い方だと思います。しかし、これは大人に限ったことではありません。学生である皆さんも同じことができるのです。新年度導入する「スタディサプリ English」がまさにそれです。皆さんの中には「リスニングが苦手」という意見を持っている人はいませんか？「英語を聞く習慣をつける」ことができればリスニングも怖くはありません。電車などの移動中、何もしないのは勿体ないですよね。そんなときにこそ「スタディサプリ English」を利用して、英語に親しんでみましょう。はじめは意識して行うと思いますが、毎日行う上で習慣化し、自然と英語を聞く環境が出来上がります。紙や鉛筆がなくても、教室でなくても、授業時間でなくても、いつでもどこでも利用できるのが「e-ラーニング」です。この機会に是非利用してください。



☆ この機会をチャンスに変えましょう！

日本中、猛威を振るう感染症の為、臨時休校を余儀なくされました。授業や補習などを利用して、この時期にレベルアップしようと考えていた人も多くいると思います。ですが、皆さんにはサポートしてくれるツールとしての「EdTech」があります。政府が発表した臨時休校の要請を受けて、EdTech 関連企業による支援策の動きが活性化しています。期間限定ではありますが、様々なものが無償で利用できるようになっています。新年度の本格的導入を前に、一度使ってみてはいかがでしょうか？使っていると「意外に便利」「効率的に時間が使える」など発見があるはずです。使い手である皆さんが様々なアプリを使いこなせば、効果は飛躍的に上がります。今の生活の中に EdTech を取り入れてください。このチャンスを逃すのは勿体ないです。ICT と利用した学習習慣がつけば、新年度からの学習もよりよいスタートが切れるはずです。ピンチをチャンスに変えて学力強化に取り組みましょう。